明日もしあわせ通信（第37号）

子ども総合
センターだより
令和元年７月号

子どもは「地域の宝」です

秋田県と言えば、なまはげ、あきたこまち、きりたんぽ、秋田犬・・・と想像が広がります。昨年、東北三大祭りの一つに数えられる「秋田竿燈祭り」を見に行きました。豊作を祈るお祭りで、提灯をつるした竿灯は「稲穂の実り」を表しています。

「ドッコイショ、ドッコイショ　ドッコイショッショ、ドッコイショ　オエタサー、オエタサ　根ッコツイタ、オエタサ　ドッコイ、ドッコイ、ドッコイショ」の囃子詞（はやしことば）に合わせて、高さ１２ｍ、重さ５０ｋｇの竿灯を片手や肩・腰・額で支えていく様を競い合います。

この竿灯の大きさも４種類があって、一番小さい竿灯を「幼若」と呼び、長さ５ｍ　重さ５ｋｇ。その幼若を小学生の低学年や園児たちが大人たちに負けじと差し上げます。幼・小・中・高・一般と、その伝統の技が受け継がれ、観光客１２５万人の心を魅了していきます。地域が子どもを育て、育った子どもが地域を創っていく営み。昨年の夏甲子園を沸かした金足農業高校。惜しくも決勝戦で敗れましたが、地元中学出身者で戦い、大声で校歌を歌う光景は記憶にしっかりと刻まれています。「学力向上上位常連県」も頷ける話です。伝統の力ここに有り。

子どもを育てることは未来の日本を支える人材を育てることにつながります。「地域の子どもは地域で育てる」の言葉通り、地域の大人が地域の子どもをしっかりと支え育てている姿がここにあるような気がします。

伊予市もそれぞれの地域で子どもを育む催し物が行われています。伊予市の夏。おらが夏祭り。今年も大いに盛り上がり、地域の宝を育てる種まきをしていきましょう。（K・H）

適応指導教室「はばたき」

「手話から学ぶ」

昨年度まで月曜日の午前中に行っていた手話教室を、今年度から木曜日の午後に実施しています。講師の先生も半田先生から新しく阿部先生に替わりました。

子どもたちは手話を使って話すという手話の技術を学ぶだけではなく、公共施設等に設置されているマークや福祉に関する正しい知識等も学び、障がい者についての理解も深めています。

子どもたちは障がいについて頭では理解をしているのですが、なかなか実践にまでは結びついていません。しかし自分の名前や自己紹介など、簡単な手話から教えていただいている中で、手話のもつ意味や手話によるコミュニケーションの大切さを学んでいます。

大人になっていく子どもたちが「共生」についての理解を深め、具体的に行動できるように育ってほしいと思います。

（歌に合わせて）

（表情豊かに手話をされる阿部先生）

いわしの供養塔

旧双海町の小網地区にいわしの供養塔があるのをご存知ですか。旧道沿いに4基あります。

一つ目は明治 22 年に建てたもの。この時代はまだ地びき網でした。

二つ目は大正9年に建てられたもの。塔には「空前ノ漁獲アリ」と刻まれています。明治 35 年からは巾着網が導入され、沖を回遊する魚群を発見し網船に合図を送るため、山見小屋(魚見小屋とも)が小高い山につくられ、勇壮な掛け声とともにむしろ旗が振られていました。最盛期には双海町に 20 か所ほどの小屋があったと言います。本尊山(ほぞんさん)もその中の1か所でした。今は魚群探知機にとって代わっています。

三つ目と四つ目は昭和 11 年に建てられたもの。それぞれ「創始以来稀有ノ大鰮(いわし)大漁アリ」、「未曾有ノ漁獲アリ」と刻まれていますから、さぞやすごかったのでしょう。網を吹き上げたとか、運搬に三日かかったとかの逸話が残っています。その時代をのぞいてみたいものです。

平地の少ない小網地区では、屋根や路地、畑の上に「ひやま」という棚をつくって干していました。この風景も昭和 40 年に加工場ができて見られなくなりました。「共栄網音頭」の踊りがその当時の作業の様子を伝えています。

小魚のいわしが多くの人々の暮らしを支えてきたのです。感謝の念を忘れず、今でも盆と正月には地区の方が供え物を手に参拝に来ています。(N.T)

右奥がいわしの供養塔

今はもう見られないひやま

いよじょのしゃべり場は
7月24日(水)です。
みんなで楽しくおしゃべりしませんか～♪

センター長のつぶやき

平和記念資料館に行って

先日、新しくなった広島平和記念資料館に行ってきた。写真パネルが壁いっぱいに大きくなっていたり、「失われた人々のくらし」が一瞬でわかる画像があったりと、その迫力に圧倒された。貞子さんの「折り鶴」の前で足が止まった。２歳で被爆し、６年生の運動会リレーで優勝したあと、体調がおかしくなった貞子。白血病である。母が一度は「晴れ着」をと、貞子に着せてあげた写真も心に残った。

貞子は、全身の痛みを「薬代がいるから」と我慢してみせた。そして 12 歳の 10 月 25 日、命を閉じた。資料館の外に出て「原爆の子の像」の前に立った。修学旅行と思われる６年生の集団が、不戦を誓う集会をしていた。「世界に平和をきずくために　これはぼくらの叫びです　私たちの祈りです」と「千羽鶴」を捧げた。

誓いを受け止めたかのような真っ青な空が、「原爆の子の像」の上に広がっていた。　　(DOI G)

＜巡回発達相談＞

小学校で福祉参観日があった際、車椅子の体験指導の高齢の男の方からお聞きした話です。

日赤を受診した帰りに突然雨が降ってきた。車椅子の身では傘をさしては進めない。困っているとまだ小学校にも行ってないような子がさっと傘をさしかけてくれ、車のところまで濡れるのも気にせず付き添ってくれた。後から来た母親の前でお礼を言うと「お礼はいいのです。この子は当たり前のことをしたのですから。」と笑顔で去っていった。こんな心づかいの人が増えると、世の中はどんなに良くなるだろう。僕は、車椅子への理解のために学校での体験ボランティアをして「当たり前」が広がることを願っている。　と…　　(A)

伊予市子ども総合センター
伊予市尾崎３－１
伊予市総合保健福祉センター２階
（電話）089-989-6226